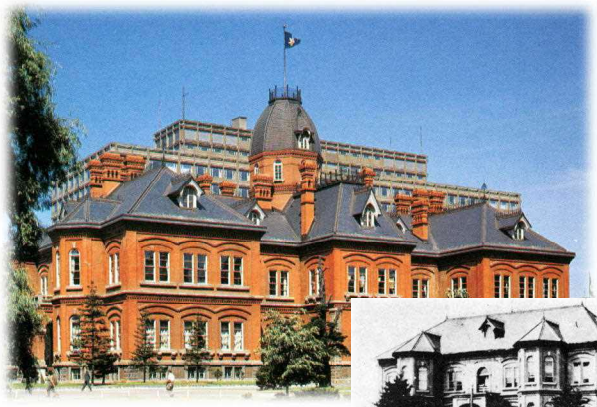
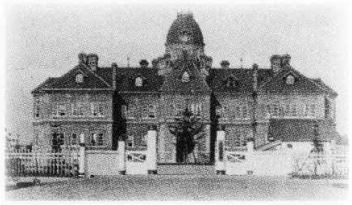
北海道立文書館展示資料解説

北海道庁本庁舎　～赤れんが庁舎～

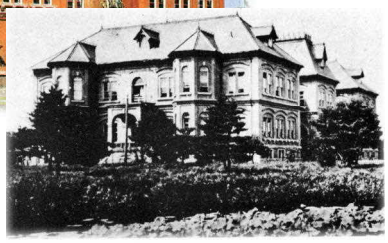
北海道庁本庁舎は北海道庁が設置された明治19年から3年をかけて建設されました。北海道庁の技師、平井晴二郎が中心となって設計したアメリカ風ネオバロック様式の建物です。建築当初は屋根の上にあった八角塔が強度不足のため撤去されたり、明治42年には火災により内部を全焼するなどその姿は少しずつ変わりましたが、昭和43年には創建時の姿に復元され、現在『赤れんが』の愛称で親しまれています。



▲復元後の赤れんが庁舎



▲建築当時の赤れんが庁舎

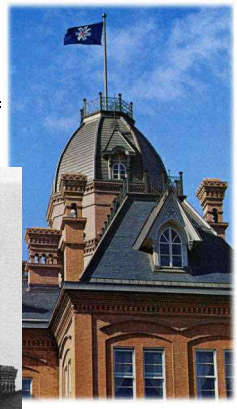


◀八角塔撤去後の赤れんが庁舎

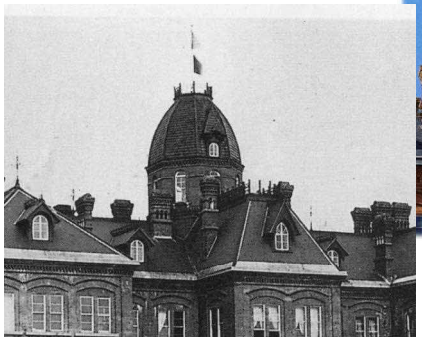
創建時、建築資材のれんが、硬石、木材の多くは北海道産品を使用しました。
れんがは札幌の白石産、硬石は札幌の石山産、木材は野幌、江別産です。
屋根は宮城県雄勝町（現石巻市）の天然スレートを取り寄せ葺いていました。

▲白石にあった鈴木煉瓦製造場の干場（明治19年）
（『白石歴しるべ』白石区役所　平成12）

▲赤れんが庁舎新築需用材料の運搬数量調　（『各課文移録』　簿書10106）



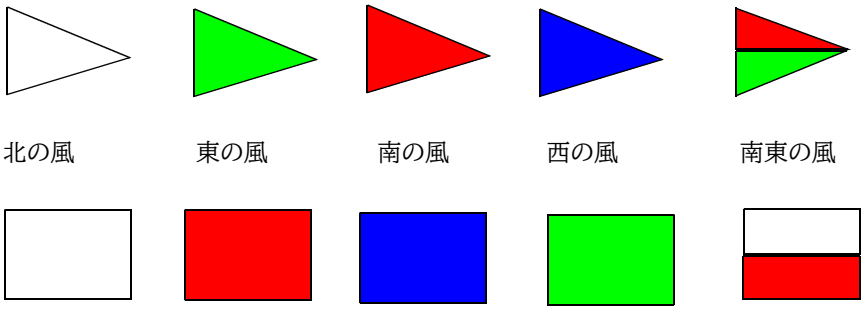
"赤れんが" 豆知識



天気予報の旗

赤れんが庁舎の八角塔には現在、北海道旗が掲げられていますが、展示室の模型には赤と白の旗が揚げられています。実は、これは天気予報の旗なのです。

創建当時はこうしてその日の天気を知らせていました。三角の旗は風向きを示し、四角の旗は天気を表しています。八角塔撤去後は前庭の池のほとりに旗を立てて天気を知らせていました。



赤れんが庁舎に関する資料

重要文化財北海道庁旧本庁舎復原改修工事報告書
（北海道総務部　昭和45）

赤れんが庁舎史話　（小原荘治郎　楡書房　昭和63）

重要文化財旧北海道庁赤れんが庁舎記
（廣田基彦　平成11）

札幌の建物（さっぽろ文庫　23）
（札幌市教育委員会　昭和57）

北海道庁事業功程報告　明治19-23
（北海道庁　明治19～23）

赤れんが庁舎の窓は二重窓になっていますが、普段はアコーディオンカーテンのように折りたたまれて、柱の中に収納されています。
庁舎2階の長官記念室では内側の窓が収納柱から出された状態になっていますので、是非ご覧ください。